

仏教とお寺をやさしく解説

さんが

Saiganji Sainomiyako Memorial Park News

2023年6月
第53号
(年4回発行)

夏号

発行部数3千部



住職インタビュー／信心のこころ
シリーズ浄土宗／浄土宗宗祖 法然上人
実践教室／分骨
お盆会・合同新盆法要のご案内

丹羽住職インタビュー 信心のこころ

来年、令和六年は浄土宗 開宗850年を迎えます。宗祖法然上人が説いた念仏の教えは多くの民衆の心をつかみあらゆる人々へと信仰が広まっていきました。

信仰心や信心とはどのようなものなのでしょう？ 改めて考えてみました。



宗教とは何でしょう

宗教を言葉で分かり易く表現するのは難しいのですが、一言で言うとするならば「私の心の拠り所」ということではないでしょうか。拠り所とは、自分のまかせられる場所、安心できる場所ということです。

近年、宗教との関わり方は変化している？

そうですね。私たちが生きている環境というのは変化し続けているものです。ですから、生活の中での宗教との関わり方も変わってくるのだと思います。昔と現代では生活スタイルも、私たちを取り巻く環境も大きく違いますし、ものごととのとらえ方も違えば信仰心の表し方も変化してきているのかもしれない。

日本では、「私は無宗教」という方も多い気がします。信仰心は無くなってしまったのでしょうか？

信仰心が無くなってしまったとは思いません。宗教や信仰心を問われると「何も信仰していない」「無宗教である」と答えている方であっても、初詣に出かけたり、結婚式をあげたり、子どもが生まれるとお宮参

りに行き、人が亡くなった時には仏式で葬儀を営んだりするのではないでしょうか？ 意識している人は少ないかもしれませんが、もし何も信じていないのであれば、そのような宗教儀礼も無くなってしましますよね。

宗教に無関心と言われる日本人の宗教観ですが、実際には、改めて宗教や信仰を考えずとも私たちの日常生活の中には仏教や神道の教えが根付いているのだと思います。

日常の中にある教えとは？

仏教の説く生き方は、感謝の気持ちや有難いと思う心を持ち日々の生活を正しく送り、人とのつながりを大切にしている自然と共生するということです。それは、私たちが当たり前としている生活です。

信仰心や信心とは何なのでしょう

信仰は神仏を信じて崇めることで、信心とは、神仏やその教えを信じる心

や加護を願って神仏に祈ることを指しますが、それは、感謝する気持ちを持つことに繋がるのではないのでしょうか。

何かが無事に済んだ時など「おかげさまで」という言葉を使います。これも目に見えないものや蔭の力に感謝する気持ちを表すことばです。「蔭」とは神仏など偉大なものの蔭で、その加護を受ける意味として使われるのだそうです。

「信仰心とは」「信心とは」と難しく考えずとも生活の中にあるお蔭さまたという謙虚な気持ちが大切であり、それが信心のころなのだと思います。

信仰心が消えるとき

大勢の中に生かされていることに気づき、有難いことと感謝する日常の気持ちも消えてしまった時、それが本当の意味での信仰の心を失ったということかもしれないですね。しかし、不安や悩みを抱え心の余裕がない時には、その感謝の気持ちをもちことさえ難しく思える時もあるでしょう。そのよう

な時に心の拠り所となるものが宗教であり仏教なのだと考えます。

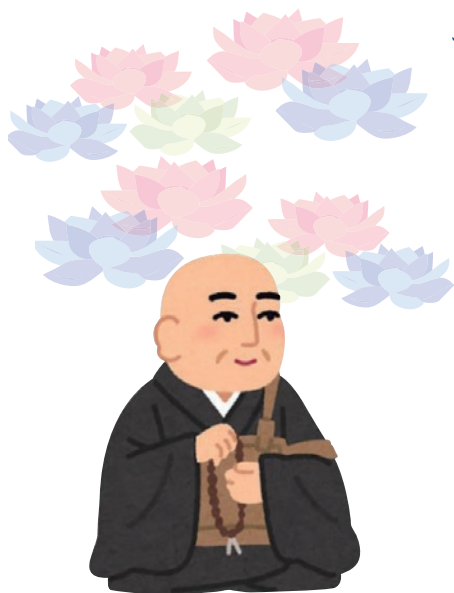
季節の仏教行事をきっかけに、自分の中にある信心のところに気付くことが出来たり、お盆とは何の行事なのか、仏教って何なのかと感心を持って頂けると嬉しく思います。



浄土宗宗祖 法然上人

平安時代末期～鎌倉時代は、貴族の世の中から武士が台頭する変革期で、保元の乱、平治の乱など度重なる政争によって混乱した世の中でした。また地震や大火さらには疫病、飢饉などに襲われ人々は不安の中にいました。そのような時代の中で、ただ念仏をとこなえるだけで極楽往生できるという画期的な救いの教え説いた法然上人。

来る令和6年は、浄土宗開宗850年を迎えます。浄土宗の宗祖法然上人とはどのような人物だったのでしょうか。



法然上人は、平安時代末期の一一三三（長承二）年に、美作国（現在の岡山県）に生まれました。父は地方豪族の漆間時国で幼名を勢至丸と名づけられました。

上人が九歳のとき、父が夜討ちにあい命を落としてしまいます。父の遺言は、決して仇討などせず、仏門へ入るようにというものでした。一一四五（久安元）年、当時の最高学府であった比叡山延暦寺にのぼると、わずか三年で「天台三大部」を読破し、知恵第一の法然房と呼ばれていました。しかし、どれだけ仏典を読み、どれだけ伝統的修行に励もうとも万民救済の道をみつけることができず比叡山をおりました。

やがて、中国浄土教を完成させた善導が著した「観経疏」にある「一心に阿弥陀仏の名をたたえ、念仏をとனால்極楽往生できる」とする専修念仏の思想にたどり着き四十三歳の時に京都東山吉水に庵をかまえ、浄土宗を開きます。

法然上人のもとには、念仏の教えをもとめ様々な階級の人々が集まり深く帰依していききました。上人の念仏の教えが広まると、それに伴い旧仏教界からの反発が強まり厳しい弾圧を受け讃岐へと流罪になり、上人が京へ戻れたのは四年後の七十九歳の時でした。しかし、高齢のため体は衰え床に臥す日々となり翌年、浄土宗の要領を簡潔にまとめた「一枚起請文」を残し、弟子たちが見守る中入寂したのです。

分骨

故人の遺骨を分けて二カ所以上の別々の場所で管理・供養することを「分骨」といいます。

遺骨の一部を菩提寺の宗派の本山に埋葬する「本山納骨」や故人の遺志や希望による散骨や手元供養、遠万のお墓とは別に新たな墓所でも別に供養をしたいなど、分骨がおこなわれる理由も様々です。

分骨の手続きは？

すでに埋葬されている遺骨の分骨をする際に必要な手続きは、現在埋葬されている寺院や墓地の管理者から「分骨証明書」を発行してもらいます。これを新しい墓地の管理者に提出すれば納骨をすることができます。（※場合によっては、新しい墓所の受け入れ証



明書の提出を求められることもある。
※ 手元供養の場合は、証明書を提出する必要はありません。）

納骨前に分骨する場合は、火葬場で分骨照明書を発行してもらい、その場で分骨すれば納骨・埋葬ができます。分骨証明書は納骨の際に必要になります。

分骨の注意点

分骨の手続き自体は難しくはありませんが、納骨後に分骨を希望される場合など、分骨が身内で問題になることもあります。トラブルを避けるためにも、遺骨所有者や親族への配慮が大切です。分骨に際しては当事者間でできるだけ話し合ってから決めるべきでしょう。



分骨はしてもよいものなのか？

「分骨するのはあまりよくないのじゃない？」そんな声を聞くことがあります。なぜでしょう？

分骨をタブーとする考えの一つとして、旧来の家督制度や檀家制度と結びついたものと言われています。

分骨はよくないのでしょうか？しかし、お釈迦さまの茶毘に付された仏舍利（ご遺骨）は、お釈迦さまを慕う各国の人々によって八つに分骨され、それぞれの国に持ち帰って仏舍利塔が建てられました。そこからまた、さらに分骨され数多くの仏舍利塔が建てられるようになったのです。

分骨は、分断されることなく、思いが広がっていくことなのかもしれません。





Q & A

Q 先日、仏壇の掃除していてお位牌を見たところ没年齢に享年と書いてありましたが、お墓の墓誌には行年と彫ってあるのです。いいのでしょうか？ また、享年と行年の違いは何でしょうか？

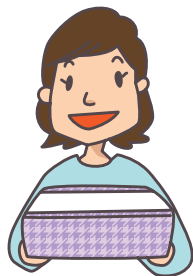


A どちらも間違いではありません。地域や各寺院の考え方によって享年、行年の考え方も違うようですが、辞書によると享年は（天から享けた年の意味）人のこの世に生存していた年数。死んだときの年齢。と書かれています。つまり、人として生きた年数は賜ったもの、授けられたものという考え方によるものです。行年の「行」は仏教で言う「行」（修行）だと言われています。生きているこの人生を修行ととらえてその年数を表しているのです。享年も行年も年数に違いはありません。記される年齢には数え歳が使われていましたが、最近では満年齢を使用することも多くなったようです。

季節の雑学

お中元

日本では、季節の挨拶として定着しているお中元ですが、「中元」とは中国の時節の考え方で「三元」（上元・中元・下元）というものからきています。そのうち「中元」は陰暦で7月15日をいい中元を祝う行事が中元節。中元節では、終日庭で火を焚いたり、齋醮（さいしょう＝壇を設けて祈り、懺悔する）という儀式を行ったそうです。それが、仏教の「盂蘭盆会」と結びついた行事となりました。中元が日本へ伝わると中国と同じく仏教の盂蘭盆会と結びつきましたが、日本では特に「お盆の頃の贈答」の習慣として残りました。江戸時代以降、中元に親類や知人が往来し、盆の礼として贈り物をする風習が生まれ、お世話になった人に贈り物をする習慣へと変化していったのです。



西願寺 TEL. 048-925-1723 FAX. 048-925-1789
彩の都メモリアルパーク TEL. 048-921-4194

掲 示 板

塔婆お焚き上げに ついて

当霊園では、塔婆のお申込み又は、墓所に立てる際に、塔婆お焚き上げ料として1本につき1,000円を頂戴しております。



※お皆様ご同行の方（当霊園以外で塔婆をお申込みの方）は墓前に塔婆をあげる際に管理事務所にお申し出ください。

彩の都
メモリアルパーク
管理事務所

西願寺 お盆会のご案内

お盆会 7月13日（木）～7月15日（土）

旧盆会 8月13日（日）～8月15日（火）

■ 合同新盆供養 ■

日時 令和5年8月6日（日）

10時～

場所 西願寺本堂



■ 孟蘭盆会合同供養 ■

日時 令和5年8月13日（日）

10時～

場所 西願寺本堂

■ 西願寺大施餓鬼会法要 ■

令和5年5月25日（木）

施餓鬼会は、「救拔焰口陀羅尼經」というお経に説かれた阿難尊者の話しに由来しています。先祖追福のために、また一切の生物の霊を慰め、あわせて自分自身の福德延寿を願う法要として、西願寺では毎年5月に執り行われる大供養法要です。



施餓鬼棚

■ お便り募集 ■

編集部では皆さまからのお便りを募集しております。仏事の疑問や悩みごと、身近なできごとや日頃感じていること、川柳など、どうぞお気軽にお寄せください。

◆ イオ株式会社

西願寺・彩の都メモリアルパーク通信「さんが」編集部

東京都千代田区麹町二・十・三・一〇二

FAX 03 (322655) 1302 Mail: info@io-conet

■ 次号予告

次号は令和五年九月発行予定の「秋号」です。

おしらせ

西願寺・彩の都メモリアルパークでは、家族の一員として可愛がってきたペットの埋葬についてのご相談も承っております。お気軽にお問合せください。





◆編集後記◆

マスク生活も緩和され、やっと日常に戻りつつある今年の夏。お盆休みは久しぶりの帰省や旅行に出かける方も多いのでは？ お盆といえば最近では、めっきり数を減らした盆踊大会、昔は地元地域のあちこちで催されていましたよね。もともと仏教と深いつながりのある盆踊りはお釈迦さまの十大弟子の一人、目連尊者が餓鬼道に堕ちていた母を救うことが出来たことに感極まって踊ったということが起源になっていると言われてます。喜びの舞だったのですね。

さて、紙面でもお伝えしていますが来年、令和六年は浄土宗開宗850年の年になります。「さんが」でも改めて「法然上人について」、「浄土宗のあゆみ」など取り上げていきたいと思っています。

発行者／

遊馬山一行院 西願寺

〒三三〇〇〇〇三三 埼玉県草加市遊馬町四三〇番地

電話 〇四八一九二五一一七三

FAX 〇四八一九二五一一七八九

彩の都メモリアルパーク

〒三三〇〇〇〇三三 埼玉県草加市遊馬町二二六〇一九

電話 〇四八一九二二一四一九四

FAX 〇四八一九二二一四一九五

企画・編集・製作／

西願寺 丹羽義昭住職

イオ株式会社 西願寺・彩の都メモリアルパーク通信

「さんが」編集部